

平成30年度 能美市立寺井中学校 学校評価(最終総括)

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞ ＜努力指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	最終評価	評価	学校関係者評価者 による意見	今後の改善策
1 組織的な 学校運営	職員全体が参画意識をもち、共通理解・共通実践に取り組む。	運営委員会	前例踏襲ではなく見直しの視点をもちつつ、各分掌からの提案がシンプルかつ具体的に、継続的に共通実践できている。	職員アンケート『目的・目標を意識し、前例踏襲にならないよう見直しを進めている。』『各分掌からの提案がシンプルかつ具体的に、継続的に共通実践できている。』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない	アンケートの結果は、a+bが97.4%であった。目的・目標を意識し、変えるべきところは変えるという見直しが進透してきていると考える。今後もさらに検討を重ねていくことが望ましい。シンプルで具体的な提案を各自が心がけて行うようになってきており、継続して進めていく。	A	学校からのたより等を一斉メールにし、職員の印刷や配付の作業、時間を軽減してはどうか。	見直し、検討を今後さらに進め、実践に生かされる提案となるよう心がける。
	多忙化改善の取組を推進し、生徒と向き合う時間を高める。	運営委員会	時間管理を工夫し、授業の準備や部活動の指導がある程度余裕をもって進められている。	職員アンケート『時間管理を工夫することで、授業の準備や部活動の指導にある程度余裕がある。』	アンケートの結果は、a+bが65.7%であった。中間総括の60%よりも改善されてきたものの、3分の1は、余裕のない日々を過ごしている。ただ、その中で、多くは個人の時間管理、工夫の必要性を感じており、業務の取捨選択や分担、優先順位を考えた行動をしていくことで多忙化改善につなげ、精神的なゆとりを持って生徒に向き合う時間を確保できるよう努めていく必要がある。	C		業務の精選と割り振り、早い段階から見直しを持って計画的に取り組むなど時間管理の工夫を図る。
2 学力向上	学習や諸活動の最初にゴールや見直しを示し、最後はまとめや振り返り活動を入れる。	研究部	様々な場面で生徒にゴールや見直しをもたせるとともに、最後はまとめや振り返りなど個に返す時間を設定している。	生徒による授業評価アンケート『授業の最初にめあてや見通しを示されている』『考える授業となっている』『授業のまとめや振り返りの場面で設定されている』『学校行事のねらいを意識して主体的に取り組んでいる』	アンケートの結果は、a+bが91.5%で、中間総括より2.2%向上した。この視点は、本校における「授業改善の3つのポイント」に掲げている内容であり、全体的に教員が意識して取り組み、浸透していると考えられる。今後も引き続き取り組んでいく。	A	テストの分布状況を見たときに2極化が進んでいるように思う。理解度によって授業を分けていってはどうか。	「授業改善3つのポイント」を活かした授業づくりを継続し、さらに学校全体で「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」を推進していく。
	指導と評価(テスト)の計画を作成・工夫し、生徒主体の授業づくりに努める。	研究部	教科部会で指導と評価の計画について確認し生徒に伝えるときも、活用力の評価について工夫している。	職員アンケート『単元の指導と評価の計画を作成し、教科担当間で確認している』『単元の学習とテストの計画を生徒に伝えている』『定期テスト等で活用力を評価する工夫を行っている』	アンケートの結果は、a+bが91.4%で、中間総括より1.6%向上した。教科部会を中心に指導と評価の計画を確認しながら実践している結果と考えられる。思考を深めるための対話的な学びを充実させていくためにも、今後も定期的に教科部会を開催し、単元計画作成やテスト作成(特に活用問題の内容や出題のバランスを意識する)に取り組んでいく。	A	小学校からのつまずきも大きいと思うので、つまずきを少しでもなくし、理解を重ねていくために、学力補充のための地域ボランティアを入れてはどうか。(小中とも)	見直しをもって定期テストの作成を行い、授業では定期テストを意識した授業づくりを実践できるよう努めていく。
	家庭や地域と連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう取り組む。	研究部	学習習慣の確立に向けた指導が十分なされ、また、放課後や長期休業中の補充学習にも積極的に努めている。	学習意識調査『学校の授業以外に月～金曜日に1日どれくらい勉強しますか』 a: まったくしない b: 30分未満 c: 30分以上1時間未満 d: 1時間以上2時間未満 e: 2時間以上3時間未満 f: 3時間以上	アンケートの結果、1時間以上の割合が44.4%であった。1、2年を中心に定期テストが関係しない月の学習時間が大変少ないことから、家庭学習が課題(週課題やテスト課題)のみになっている生徒が多い。今後も学習時間記録をもとに本人へ指導するとともに、課題だけではなく、予習復習が必要となる授業づくりや、学習習慣の形成に向けた指導を継続して行っていく。	D		家庭学習の充実(学習習慣の確立)に向け、週課題や家庭学習の取り組み方(予習、復習)についてなど、各学年研究部員と連携して進めていく。
3 心の教育の 推進	学習規律等の指導を通して、実社会で必要とされる態度やマナーを身に付けさせる。	研究部	チャイムと同時に授業の開始終了がなされ、気持ちの良い挨拶とともに規律ある雰囲気の中で授業が行われている。	学習意識調査『次の授業の教具をそろえ、不必要なものは机の上に置かないようにしている』『チャイムが鳴る前に席に着いている』『号令と授業のあいさつはしっかり行うようになっている』『授業では、私語を慎んでいる』	アンケートの結果は、a+bが93%であった。「授業を高める7か条」に含まれる「教具の準備」「チャイム前着席」「号令・あいさつ」については、全体の意識が良好に定着している。今後も引き続き授業規律の徹底に取り組んでいく。	A	不登校やいじめの情報学校が提供していくことで、保護者や地域ができることを考えていけるのではないかと。学校全体への発信が難しい場合は、PTA役員会の中だけでも情報を提供していくことで、PTAや保護者会で講演会や啓発活動を行っていいのではないかと。道徳教育の基本は家庭であり、家庭での教育のあり方を発信していくことで家庭教育を充実させ、家庭、学校、地域が連携して子どもを育てていってほしい。	今後も「授業を高める7か条」を生徒、教師ともに意識していく。また、生徒学年委員会による啓発活動も継続して行っていく。
	保護者と連携しながら、一人ひとりの状況や特性に応じたきめ細かな指導を行う。	通級指導部 生徒指導部 通級指導部	生徒理解に努め、保護者の願いも受け止め、個に応じた支援を行っている。通級教室も適切に運営されている。	不登校や不登校傾向、別室登校生徒の改善状況で判断 いじめ問題への早期発見・早期対応で判断 通級教室の運営状況については、運営委員会での討議をもとに判断	「通級による指導」の趣旨に正しく沿った運営を心がけることができた。1年生は小学校からの継続的な不登校があり、全校的な不登校生徒の人数は昨年度より若干増加したが、外部機関との連携、SCと生徒・保護者との関係構築を含めた組織的な相談体制を整え、個に応じたきめ細やかな対応をしている。	B		関係機関と連携し、よりよい支援の方法を考え、改善に努める。また、不登校の未然防止、生徒や保護者との対応に向け、相談しやすい環境を整える。
	これまでの道徳教育の実践研究の蓄積とその成果を共有化していく。	道徳部	すべての職員が、道徳教育年間指導計画に沿って道徳の授業を実施している。	職員(学級担任)アンケート『道徳教育年間指導計画に沿って道徳の授業を実施している。』	アンケートの結果はaが100%であり、各学年共に道徳担当が毎月の教材を提案し、それに基づいて授業を実践している。また、発問や授業展開について情報交換したり、手作りの教材などを共有したりしながら指導力を高める工夫ができた。今後は評価について共通理解を図っていく必要がある。	A		指導と評価の一体化を意識し、これまで以上にねらいを意識した授業改善に努める。また、励ます評価となるよう共通理解を図る。
	生徒の「話し合い活動」を生かした学級づくり・学校づくりに努める。	生徒指導部	行事等において様々な課題が生徒同士の話し合いで解決されている。また、学級では、規律が守られ生徒の主体性が発揮されており、学校への満足度が高い。	体育祭、文化祭の生徒アンケート『体育祭(文化祭)は楽しかったですか』 Q-Uの結果の「学級満足群」の割合※それぞれについて評価を出す	QUから学級生活満足群は、1年71%、2年61%、3年78%であった。7月(1年70%、2年60%、3年72%)と比べると、全学年ともに上昇している。2・3年生は前年度と比較しても満足群の割合は増加している。また、全国平均37%と比べると大幅に上回っている。<A>学年行事では、全校生徒のa+bの割合が97.2%であり、大多数の生徒が満足感を得ることができた。学校全体として生徒会主体の行事運営にも取り組むことができた<A>	A	地域の子どもの食堂と学校がつながりを持ち、不登校や不登校傾向の生徒の自分の居場所づくり、自己有用感を高めるはたらきかけをしていってはどうか。	行事に限らず、学校生活において「目標→実践→振り返り」の流れを実行し、学級会を活性化させ、生徒の主体的活動場面をさらに増やし、達成感、自己有用感を高める。
4 体づくりの 推進と安全 指導の徹底	目的意識をもたせ、心身の発達にふさわしい活力ある部活動運営に努める。	生徒指導部	生徒が部活動に目的意識をもって参加し、充実感や自らの成長を感じている。	生徒アンケート『部活動が充実していて、自らの成長が感じられる。』 保護者アンケート『お子さんの部活動に満足していますか。』	生徒のアンケートでは、a+bが91%となり、昨年度より2.7%上昇した。多くの生徒が、部活動を通して、自己の成長を感じているが、保護者のアンケートではa+bは、78.3%であり、保護者は生徒ほど部活動への満足度は高くない。	A		節目ごとの目標達成にむけて、技術の向上のみならず、精神の成長や仲間と協力し活動することの大切さを意識した指導を行う。
	保護者や地域とも連携し、交通ルール・マナーの徹底を図る	生徒指導部	先生方の指導が徹底され、昨年度よりも交通ルール・マナーの徹底が図られている。	生徒アンケート『あなたはこの1週間、自転車乗車中、交通ルール(一時停止・信号遵守)を守りましたか?』 『あなたはこの1週間、自転車乗車中、ヘルメットをかぶり、あごひもをしっかりとめましたか?』	2つの質問に対してa+bでは98.7%になる。しかしaだけでみると交通ルールで78.8%、ヘルメット83.5%であるが、並列走行や飛び出しに関する地域からの苦情もある。生徒自身が交通ルールを守っているつもりでも、安全に対する意識がまだまだ十分ではない。今後は集会や学級指導で交通安全の呼びかけを徹底し、週2回や月2回の交通安全指導だけでなく、登下校時の安全走行についても呼びかけを続けていく。	B	ネットの使用時間も問題だが、生徒のネットの使用時間帯の把握することで、生活改善につながっていくのではないかと。保護者が、スマートフォンの制限機能などについてもっと知るべきであると思う。	今後も交通ルールや公共ルールの徹底、定期的な該当指導や交通安全教室を実施していく。
	ゲームやインターネット等の関わりも含め、より良い生活習慣の定着を図る。	生徒指導部	生徒が自分をコントロールする力を身に付け、基本的な生活習慣の定着が図られている。	生徒アンケート『起る時間・寝る時間・勉強を始める時間を固定し、規則正しい生活ができている』	アンケートの結果はa+bが70.3%であった。約3割の生徒が規則正しい生活を送っているとはいえない状況にあり、学力向上の土台である望ましい生活習慣に課題が残る。平日のネット使用時間が1時間以上の生徒が45%と多く、ネットの使い方も課題である。	C		メディアリテラシー教育の計画的・段階的な実施、小中連携による「ゲームネットコントロール週間」を継続して行う。
5 家庭・地域との 連携	地域社会と連携及び協働しながら、キャリア教育の充実を図る。	総合・特活部 運営委員会	地域社会との連携を図りながら特色あるキャリア教育を推進し、生徒の夢や目標を育てている。	学力調査・生徒質問紙『将来の夢や目標を持っている。』『授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う。』	a+bは72.2%である。わく・ワーク体験等の感想を見れば、生徒は有意義な体験をしてきていると判断できるが、それが生き方や在り方を考える機会にまで深まっていない。今後は、それぞれの取り組みで見直しと振り返りをさらに意識するとともに、系統立てたキャリア教育となるよう見直しを進めたい。	C	学校からのたより等をメール配信もしくはホームページにアップした方がよいのではないかと。学校だより等がなかなか手元に届かないし、何が配付されているかわからない。重要なものについては、何を配付したかということもメールで配信してはどうかと思う。	キャリア教育計画を見直し、3年間を通して生徒が自らを知り、役割や生き方を考え、進路を意欲的に切り開く力をつける流れを構築する。地域や校区外の人材を幅広く活用し、多種多様な見方、考え方を通して人間力の向上を図る。
	各種たよりやHP等を通して保護者への情報提供に努める。	情報委員会	学校公開やたより、HP等により、学校や学年学級の様子が保護者にほぼ伝わっている。	保護者アンケート『たよりやHPを通して学校や学年学級の様子が伝わっている。』	アンケートの結果は、a+bが77%で、昨年度の77.6%と大きく変化はなかった。「たより」が手元に届かないという意見がよく見られた。ただ、HPの閲覧者数は徐々に増えてきており、たよりの内容を精選し、更にHPの内容を充実させ、HPを通して保護者に発信、情報提供をしていくようにしていきたい。	B	ホームページをもっと保護者に周知していった方がいい。	生徒・保護者に「家庭と学校をつなぐファイル」の活用をよびかけるとともに、HPのさらなる充実を努める。